

国語力の活用で社会科の「問い」を追求する —「沖縄県の人々の暮らしについて 調べたことを伝えよう」(五年)の実践から—

兵庫県三田市立ゆりのき台小学校
岡本 恵太

1 はじめに

社会的現象について「なぜ」「どうなっているの？」などの疑問を抱き、追求することが社会科の魅力である。国語科で身につけた「情報収集と解釈」「柱立てと論述」の力を活用することで、社会科における「問いの追求」はいっそう確かなものになる。

本稿では「沖縄県の人々の暮らしについて調べたことを伝えよう」の学習(五年 社会科六月実施)の学習を通して、他教科における国語力の活用について述べたい。

2 自ら問いを持ち、情報を切り取る

まず「沖縄県の人々の暮らし」について、調べたいテーマを決める。例えば「家づくりの工夫」「果物づくり」「料理」などである。この段階で、似ているテーマを調べる子どもとしてペアを組んでおく。以後、ペアで伝え合いながら学習をすすめる。

情報カード

自分のテーマ (さとうきびは?)

カードの題 伝わってき!

琉球(沖縄県の古い名前)
には、インドネシア、インドの
カンジス川、中国をよび
伝わったという。

情報源 (インターネット)
の (8) 枚目

情報カード

左は調べ学習の段階で子どもたちが書いた情報カードである。これは「さとうきびはどこから来たのか」という問いに答えたもの。情報カードづくりの手順は次の通り。

①まず「知りたいこと」を「問い」としてノートに書き出す。

②資料等から、自分の「問い」の答えにあたる情報を切り取る。

3 「小さな問い」から「大きな問い」へ

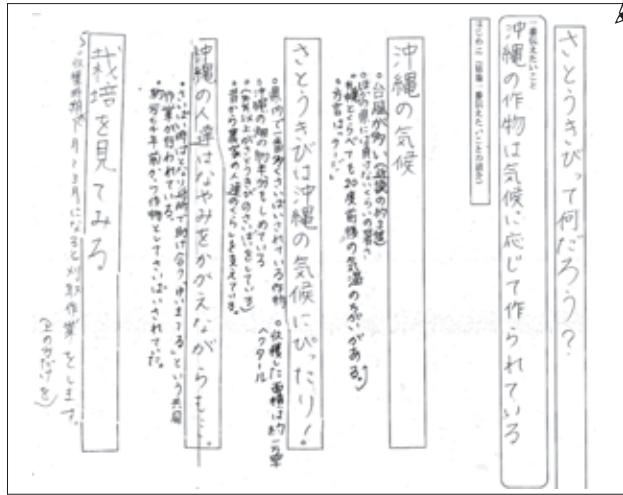
③切り取った情報をカードに書き、見出しをつける。(一つのカードにつき、一つの情報だけを書くようにする)

本などの資料やホームページには膨大な情報が含まれている。情報カードづくりによって「問いと答え」という形で、必要な情報を切り取ることができた。

前段階の「情報カード」を整理し、柱を立てる。次ページの構想メモでは

- ・県内で一番多く栽培されている作物
- ・沖縄の畑の約半分
- ・昔から農家の人たちの暮らしを支えているなどのカードが「さとうきびは沖縄の気候にぴったり」という柱にまとめられている。

一枚の情報カードに書かれたのは、資料からすぐに答えられる小さな問いである。それを分類、整理することで「さとうきびは沖縄の気候にぴったり」という「大きな問い」が



生まれ、伝えたいことの柱としてたてられた。ここで注目したいのは先に紹介した「サトウキビの由来」カードが、構想メモ段階では落ちていることである。ペアで伝え合いながらカードを分類整理する段階で「もっと沖縄の気候についての情報を集めたら?」「気候についての情報はいらぬのでは?」という友だちからのアドバイスがあったためである。

4. ペアで聞き合いながら練り上げる

先の段階でつくりあげた「構想メモ」を手にしてスピーチ練習に取り組む。この段階では、スピーチ原稿は書かない。

ペアで聞き合うにあたって次のような「スピーチのものさし」を提示した。

スピーチのものさし（一部）

○「結論」を最初と最後ではっきり話しますか?

○「結論」と「柱」は結びついていますか?

・足りない柱は?

・柱の順番は?

下の資料は、「沖縄県の人々のくらし」スピーチについての相互評価カードである。ペア（サポーター）の児童からアドバイスを書いてもらい、それをもとに「スピーチをよりよくするために気をつけること」をまとめる。

「結論と柱が結びついていた」などのアドバイスをいかし、次は絵を見せるなどの具体的な工夫にうつっていくようとしている。

互いに聞き合い、スピーチを修正していく過程で、自らの「問い」について、「柱を

○スピーチの練習（サポーターに聞いてもらって）

	サポーターから	サポーターのアドバイスをもとに
練習 1回目	絵はまた使わないけれど、 めあてがしっかりできていてよか たよ。	サポーターから聞くことを ほめてもらったので、2回目 からは絵を使ってみよう して、いろいろなお話を しようよ。
	結論と柱が結びついていたと 思っています。 最初と最後の言葉は、しっかり できていて、わかりやすかったです。	ほめてもらえるように がんばります。

たてて述べる」力が繰り返し活用されるのである。

国語力の活用により、社会科の学習における「問い」がいつそう明確になる。同時に「問いの追求」も、より確かなものとなる。

おかもと けいた 一九六三年、大阪府生まれ。兵庫県三田市立ゆりのき台小勤務。「筋道をたてて考える力の育成」を軸に実践研究をしている。